

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名:川場村 担当者名:松井 太郎)

活動名	【小学校高学年】		
活動目的	・所属するクラブを自分で選ぶことで、意欲的に取り組み <u>専門的な力と個性</u> の伸長を図る。(生)		
	・他学年や <u>地域の方</u> との交流を通して、望ましい人間関係と <u>自尊心</u> の形成を図る。		
	・ <u>地域の方に</u> 聞きながら協力してよりよいクラブづくりをしようとする態度と自主性を育む。(生)		
支援者等	・地域ボランティア12名(工務店、囲碁将棋クラブ、スポーツ協会、地域住民) ○子どもに <u>専門的な指導</u> を依頼する。教師は <u>内容の調整</u> が 必要。ボランティアは、 <u>各人の能力</u> が異なる。(コバ)		
実施学年・人数	4・5・6学年・70名		
学習場所	・体育館、家庭科室、教室、図工室		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	○スポーツ	スポーツ協会の	・生徒や先生方のアンケートを元にスポーツの種類決定の補助と指導
	○囲碁・将棋	囲碁将棋クラブ	・囲碁将棋の指導
	○手芸	文化協会手芸部	・生徒や先生方のアンケートを元に手芸作品の案の補助と指導
	○木工	地元工務所	・生徒や先生方のアンケートを元にいくつかの提案をするなどの木工作品の案の補助と指導
評価方法	・児童の観察		
	・児童の変化(児童と先生へアンケート) ○ <u>変化の度合い</u> を把握する		
	・地域の方に認めてもらったり専門技術を身に付けたりするなど全員がクラブ活動を楽しむことが出来る		
	・異学年や <u>地域の方と交流</u> しながら <u>協力</u> して活動が出来る(生)		
課題	・自分から進んで地域の人に聞き、意欲的に取り組むことが出来る		
	・より専門的な力を付け、 <u>成果を発表</u> することができたか		
	・積極的になれない児童もいた		
	・活動計画を児童の立案が弱くなる		

あ〜そうか〜(生)
時には地元の中学生・高校生とボランティアメンバーにボランティヤをよいかも(生)

やっぱ「種目」を子どもたちで決めよう(生)
スナック!!(生)

具体的に何をやるか(生)
コンペター
今年代に合った!!
「いっしょだね!!」(生)

さらに他のジャンルが増えたいかも。
料理、ダンス...etc(生)

思えるといいね(生)

②人数にかたががで飛べず? (生)
どうしますか?

子どもたちをうまく巻き込みにく
技術や大人にも必要。大人向けに研修会があるかも。(生)

担当の教師がどう対応するかしらですか? (生)

・ボランティアとの連絡調整の時期の負担を軽減する
「役割を工夫して」解決する(生)

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業（市町村名：甘楽町 担当者名：岡田みゆき）

活動名	スマイルサポーターズ ～地域の未来への種まき～ 【小幡小学校】		
活動目的	・自分の住む地域にはこんなに多彩で魅力的な人がいると児童が知り、将来を考える参考にしてみたり、郷土への誇りや愛を育む。		
	・地域の大人にとっても、地元の子どもと触れ合える貴重な機会。活動の喜びや楽しさ、支援する遣り甲斐などを感じてもらう。大人自身もさらにイキイキ。		
	・地域内で活動を通して子どもから年配者まで幅広い層の人がつながりを持つことで、より楽しく活気ある地域をつくる。助け合いの気持ちも生まれ、安全安心な地域基盤もつくられる。		
支援者等	・地域に住む人なら誰でも。犬などペットも。 アベックや子ども達まで入るのがいいと見えます(松井)		
実施学年・人数	(全) 学年・(約150) 名		
学習場所	小幡小学校 および学区内		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	○ 要請があれば随時、授業等に向向いてレクチャー。例えば、総合的な学習の時間（地域の歴史や産業）、音楽、理科、社会、給食	専門性の高い地域の人の人	○お話しして知識技能が前88. 教師はして双児態の解消。(コバ) 同じ発見が出来る(松井)
	○ ちいき集会の開催（月1回程度）。朝の全校集会の時に毎回地域の人をゲストとして招いて、インタビュー形式でいろいろ語ってもらう	○集合の2人への解消、セリヤ教育のつらさは、他の集合やプログラムで毎回1人または1団体	自分の仕事や活動、生き方などについて気楽に話してもらおう。 同じ発見が出来る(松井)
評価方法	○ 上記のように関わってくれた地域の人たちには、スマイルサポーターになってもらう（オリジナル缶バッジを贈呈＝支援者の目印。バッジを持った人が地域内に次々と増えていく）	地域の幅広い人々たち	○見守って子ども安心感(生) 「応援してるよ」のメッセージの発信になる。→子どもたちは嬉しい
	○ みんながサポーター。授業に協力した人や集会で登場した人だけでなく、学校及び地域のために何かしたい気持ちを持っている人に拡大	無限に。子ども自身も、地域のサポーター	○環境美化、登下校時の見守り（お年寄りの安否確認）、緊急時や災害時の互助など多彩に。 ○地域への感謝(子) 子どもも実行可能 新しい発見が出来る(コバ)
	・子どもたちの観察（楽しんでいるか等）や感想も時々聞いてみる お話しして子どもはよく聞いてくれる(松井)	子ども自身も、地域のサポーター	子ども達も楽しそうに自分たちでやる(松井)
成果	・児童は、よりリアルで体験的な学びを得られる。		
	・自分たちを応援してくれる人がこんなにいると喜び、自尊心も高まる。 大人にも、子どもにも気づきがある(松井)		
	・子どもたち自身も「地域のためにできること」を考えるようになるはず。今も、将来的にも。		
課題	・大人は自分の得意なことでも地域の子どもをサポートでき、きっと楽しさや遣り甲斐を感じられる。		
	・学校と地域のつなぎ、調整する人（窓口）をどうするか。学校側の負担は最小限に。		
	・地域の人はどう周知し、巻き込んでいくか は報にのせて、地域の人から声を聞く(松井)		
課題	・活動を長く継続させるために、どんな体制でやるのが望ましいか 子ども達も楽しそうに自分たちでやる(松井)		

学校の姿勢と継続させるために、どんな体制でやるのが望ましいか
子ども達も楽しそうに自分たちでやる(松井)

注

活動名	高島小クリスマス会			
活動目的	・子供達に楽しい活動を提供する。			
	・集まった人達が楽しいひとときを共有できる。			
支援者等	・スクールボランティア 4~5名、ピアニスト 1名			
実施学年・人数	() 学年・() 名	希望する児童・保護者、地域住民、先生		
学習場所	学校の音楽室			
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容	
	○読み聞かせ (2名) ・クリスマスにちなんだ絵本の読み聞かせ	とびだめの会 スクールボランティア	司会 飾り付け	
	○サンタのコンサート (3名) ・歌、クイズ、ビンゴゲーム	近隣在住の 演奏家 スクールボランティア	進行の補助 景品・参加賞づくり ゲーム 意図的に 交流できる ものを準備しよう	
	○活動様子の情報発信	スクールボランティア	記録用の写真撮影 ボランティアだよりの作成と 回覧	
評価方法	・参加者の観察 (表情、言動、楽しんでるか、関わり合いはあったか) 児童・保護者・先生 ↔ 支援者 ↔ 地域住民			
成果	・子供達に楽しい活動を提供できた。			
	・集まった人達の関わり合いがあった。 ・普段、学校や子供達と接点のない地域の人々の参加があった。 ・情報発信することによって学校への関心が高まった。			
課題	・地域住民の来校が少ない。 ・人が集まる魅力的な内容が必要。			

名れなごも工夫してお互いが
名前を呼ぶ関係にしたい

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名):

担当者名:

【小学校・中学校・高等学校・その他】

活動名	福祉交流活動		
活動目的	昔の遊びを通して、感謝や尊敬の念を持ち、郷土愛も深める。 (つなばつ、南の川/合い)		
支援者等	老人クラブ		
実施学年・人数	(/)学年・(20)名		
学習場所	体育館		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	○ (名) 遊び方を教えよう		
	○ (名) 一緒に遊ぶ		
評価方法	お年寄り→子供達に教えよう そのおれに子供達→お年寄りに新しいことを教える。ニュースポーツ、エクモリック もなす		
成果	老人クラブは子供との交流は新鮮		
課題	地域の方の理解があまりない。情報発信。こども新聞		
	職員と一緒に育ていく		

活動の目的の中に「子どもと地域の人たち交流促進」ということがある、ということも伝え、進んで声をかけてもらうようにする。

児童がお年寄りに教えたり、(タブレットを使ったゲーム)車至スポーツと一緒にやっても楽しいのではないかと。

1) バンパル、リムボ、下遊びは大切、昔の遊びは伝えたい、お年寄りと一緒に作る遊び、切れる。

地域の方々に学校の来もう良い機会とある。

遊び方を知らない、子供もいるので、教えてもらえれば、ありがたい。

孫がいない人も、学校に隣にいても、もらえていい。

老人クラブは、子供が大好き。

広域、小、中、地域ごとに分けて、できれば参加者が、あるかも、学校に行きたくない、歩いて行けない、いる(送迎は?)

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名:高山村 担当者名:鳥塚嘉紀)

活動名	総合的な学習「米作りを通して高山村の人や自然を見つめよう」【小学校5年生】		
活動目的	・米作り体験を通じて、米作りに関わる人々の思いや努力を知る。		
	・自分たちの住む地区の米作りの様子を知り、米作りと自然や自分の生活との関わりを考える。		
	・米作りを通して学んだことを、まとめたり発信したりする力を身に付ける。		
	月あかね生産組合の方々、地域学校協働活動推進員、保護者、農林課・地域振興課の職員、保護者、地域ボランティアの方々、教師		
実施学年・人数	(5)学年・(21)名		
学習場所	教室、田んぼ、家庭科室		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	○米作り、田植え～稲刈り・脱穀 体験活動や観察を通じて、実感をもちながら高山村の自然や日頃食べている米について考える機会とする	教師 月あかね生産組合 5年生保護者 地域ボランティア 地域学校協働活動推進員	・稲作活動の指導 ・活動のサポート ・支援者との連絡、調整
	○米作りに関わる人の話を聞く 児童が米作りについて調べ、疑問に思ったことを質問したり、高山村の米の魅力について専門家から話を聞く機会とする	月あかね生産組合 農林課の職員 地域学校協働活動推進員	・米作りへの思いを伝える ・村内の米の生産状況や販売状況や広報について伝える ・支援者との連絡、調整
	○自分たちの育てた米をアピールしよう 米のよさをアピールするためのポップづくりや米袋のデザインを考えることで、発信力を養う	教師 地域振興課職員 地域学校協働活動推進員	・高山村の魅力を伝えるときにどのような思いで、どのような方法をとっているかについて伝える ・支援者との連絡、調整
評価方法	○米作り感謝の会を開こう 育てた米を使っておにぎりを作り、米作りに関わった人を招待し感謝の気持ちを伝える。 米作りを通じて学んだことを発表する。	教師 月あかね生産組合 5年生保護者 地域ボランティア 地域学校協働活動推進員	・おにぎり作りのサポート ・児童の発表に対して感想を伝える ・支援者との連絡、調整
	・農家の人やゲストティーチャーの話を聞いて、高山村の米作りについて進んで調べようとしている。		
	・米作りを通じて学んだことを活かして、高山村の米の魅力についてまとめたり表現したりしている。		
	・様々な分野の専門家の支援を受けることにより、高山村の魅力に目を向けることできた。		
成果	・魅力を発信する機会を設けることで、児童がより深く高山村の自然や関わる人の思いを考えることにつながった。		
	・保護者に参加してもらうことにより、子供たちの教育活動に多くの地域の方が関わっていることを知ってもらう機会とすることができた。		
	・社会科、国語科、図画工作科、家庭科の学習と関連付けることで、教科横断的な学習となった。		
	・田植えの後、稲刈りまであまり田んぼに行かなかったのに、田んぼの管理を月あかね生産組合の方々に任せきりになってしまった。		
課題	・まとめたことを発表する機会を校外にもとめるとよかった		
	【ポイント1】 遠征の目的（何のためにやるか）を明確にしているか。		
	【ポイント2】 地域づくりにつながる展開となっているか。		
	【ポイント3】 幅広い住民が参画しているか。		

お米いばなれを止めたいめに
地域の米づくりを継続して
学び、体験することは
大切ですよ

つなぐ(天)

米は知っていても「稲作」は
知りません。この部分は特に
大切なので気を配ります

米は子供達の心にさざりますよ

外に向けてのアピール、すじ
から正しいプランです

生産者を呼んで食事を
すると生産者は一方通行で
ないことを実感し、来年も
やろうと思ってくれます

生産科で地産年も夏場に
やってあげよう(天)

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業（市町村名：沼田市 担当者名：長谷川 久代）

収獲線に高台を呼ぶと、
城見か負担
祖父母の名前も
名づかに書いてもらう
交流しやすいように、お互い名前を
口ずか合えるような名札や交流の
時間としてどうが。(21)

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名:おろかおろか 担当者名:生方規ふ)

活動名	【小学校・中学校・高等学校・その他】 はじめての書字			
活動目的	・書道の用具を知る			
	・毛筆の持ち方や用具の使い方を教える、鉛筆やペン字の違いを知			
	・毛筆で書いてみる			
支援者等	・地域で書道をしている方(講師) 2名 とボランティア 1名 教師1名 将に子			
実施学年・人数	(3)学年・(25)名 もっと人材がいらっしゃる方が増えるといいですね。岡			
学習場所	学年の教室			
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容	
	○書道用具の説明、配置の仕方(名)	教師	正しく配置で書いてみる	
	○毛筆の持ち方、重かき方(名)	講師	正しく持ち重かかせて いるか、	
	講師の先生が書く、書き方を見る	講師	正しい持ち方重かき方 を見て覚えさせる	
	実際に墨を付けて書いてみる	講師 ボランティア	墨の適量 筆の運び ができていくか、	
評価方法	・用具について理解できたら、 いざ落書きさせて筆使いができたか、			
成果	・次回から授業の前に準備ができる ○とても大切なのは、道具を扱う姿勢。姿勢、実際の活動は目一杯やる。(コバ)			
	・正しい筆使いが、できる			
	講師の先生に直接教えてもらう事で技術の習得が大切だということを			
課題	正しく筆使いが、できることを文字を美しく書く意欲を持つ			
	・時間内に片付けができること、 一学期にわたる回数が増えたら 45分でも、30分と短くてもいい。(コバ)			
	・筆や墨で教室を汚さない			

一学期は一朝一夕に習得できるものではない。習得がなかなか進まない。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。(コバ)

一学期は一朝一夕に習得できるものではない。習得がなかなか進まない。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。(コバ)

一学期は一朝一夕に習得できるものではない。習得がなかなか進まない。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。(コバ)

一学期は一朝一夕に習得できるものではない。習得がなかなか進まない。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。(コバ)

一学期は一朝一夕に習得できるものではない。習得がなかなか進まない。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。習得には大変な時間が必要だ。(コバ)

教師自身への講習会も設けたい。簡単な技能は教えるようにしたい。簡単な技能は教えるようにしたい。簡単な技能は教えるようにしたい。(コバ)

発達段階に合った内容で
森を育てる。
◎6年間の学び
資源を活用できる
◎中学生
5年生
小学校伐倒
1
中学生で使用する

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名:高山村 担当者名:石坂)

活動名	クラフト木工づくり 高山中学校 【小学校・中学校・高等学校・その他】		
活動目的	・村内の木や竹を使用し、村内の森林資源に興味を持ってもらう 廃材の活用がよい ④ 地域の方、地域の良きところを知る活動につなげる④		
	・木工作品作りを通して、創作の楽しさを体験する		
支援者等	・従来の市販資材のクラフトBOXに村内の森林資源を加えてオリジナルのクラフトBOXを作る 地域の方、地域の良きところを知る活動につなげる④		
	・担当教諭 ・地域の有志 (DIYが好きの人、林業経験者、工務店勤務経験者など)		
実施学年・人数	(1)学年・(25)名		
学習場所	高山中学校 技術室		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	○村内の森林資源についてのお話 ○事前準備しておいた資材の説明	協力者(林業)	森林資源の現状について話を する 伐採について知ることもできる ④ 伐採、製材の様子も見学も ④ ー小学校生
	○創作活動の説明 事前に設計図とか、イメージ図とかも書くのでいいか。	担当教諭	クラフトBOX創作について説明する
	○クラフトBOX創作活動	担当教諭 協力者	作業補助 ・中学生くらいの子とノギヤ、7本の打ち釘など 生徒のアイデアに寄り添う形で補助する スムーズにできるのか？
評価方法	・生徒の観察 (自主的に考え実践できているか、安全に作業ができているか、創造性を楽しんでいるか) 個性もでてくるだろう。		
成果	・線引き、のこぎり、釘打ちなど技術面のサポートが幅広くできた。④		
	・それぞれの創造性を尊重し形にすることができた。		
	・不得意な生徒へのきめ細かなフォローができた。中には無活用の子もいるものね。		
	・地域の人と協力して進めることで、他者との関わりを学びながら作業ができた。 社会性が育ちますね。		
課題	・支援者によって技量が違うので、事前に支援者同士が得意な事、できる事を共有しておく時間を持つ。そうすること で、必要なサポートを生徒たちに的確に提供できるようになる。		
	・作業効率に生徒個々で差が出てきてしまうため、特にサポートが必要な生徒がいる場合は事前に共有と情報共有しておくと良い。		
	・生徒の作りたたいイメージと現実のできる事がかけ離れている時のサポートをどうしたらいいか迷う場面があった。		

更なるつながり作りとして・・・
参加した支援者たちより「こんなにすごい機械や設備があるなら是非使用したい」と提案があった。
また、支援者同士がそれぞれの得意分野を共有し、教えてもらいたいと言った話も盛り上がった。 地域の方は学校は目か向いていない。 ④
⇒学校の放課後の時間帯を使用し、技術室を一般開放活動の提案
有の声を大事に。どんな活動が面白いかな。 ④
・支援者たちが「木工倶楽部」を作り、作業をしていただく。 学校の授業から地域へ広がっていくと嬉しい。 ④
・できた作品は村の文化祭やさとのわへ展示
・作業に参加したい生徒と一緒に参加できる
・自分たちの力を地域貢献に！と考えていただき、保・園・小・中・地域で木工作品(おもちゃ・椅子・棚・名札・小物など)のニーズがあれば木工倶楽部で作り提供していく。(有償)
・「夏休み親子木工教室」の開催:教育委員会主催 木工倶楽部、利根実業高校森林科学コース 協力 (中学生ボランティア参加)
・「名久田川の源流から森林資源を考えるフィールドワーク」の開催:役場主催 入起会、教育委員会 協力 (中高学生ボランティア参加)
◎そのように村の人・もの(森林資源)がつながる活動へ発展させていきたい。

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業（市町村名：南牧村 担当者名：青山裕也）

活動名	村の伝統的な祭りでの売店【 1～6年生 ・ 7～9年生 ・ 高等学校 ・ その他 】		
活動目的	子供の数が減りいく中で、地域のあつりに参加することは大切。 ・地域の伝統的なお祭りに携わり、地域住民や観光客と触れ合いながら涼を楽しむ。 ・地域のあつりに参加してくる人は地元の人たちの喜びにもなると思われ。 ・販売品・販売方法・販売額等を考え、実際に現金を扱い、お金や商品の大切さを学ぶ。 ・ふるさとの魅力を再発見するなかで、地域の未来について考えるきっかけをつくる。 （地域で学ぶ：何の体験が本に愛着を！ 愛着を！ 愛着を！）		
支援者等	・飲食店経営者、祭りの実行委員会、販売場所の土地所有者、住民・観光客、協働活動支援員等		
実施学年・人数	(7～9年生) 希望者 ※お祭りが、お盆中 (8/14,15) のいずれかのため たくさんの子供が参加してくるようですね。		
学習場所	学校（事前・事後）、お祭り会場（当日） (学校には成績表に記入してもらえます!!)		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
中学生の実行委員会 と立ちあがってお祭りを 盛り上げよう！子供 達にも体験させて あげ、大人はサポートに まわります。	○事前 ・販売品、販売方法、販売額、必要物品等を考えたり、販売場所の交渉をしたりする。 事前準備がどのくらいか(6) 教員も準備を 2時間 行入れ、お祭り。	飲食店経営者 実行委員会 土地所有者 協働活動支援員	・販売に関わるアドバイス ・祭りの参加について ・土地の借用について ・話し合いのサポート
	○当日 ・販売したり地域の方、観光客と触れ合ったりする中でお祭りも楽しむ。 子供のコミュニケーション能力が高まっていると思います(6)	飲食店経営者 協働活動支援員 住民、観光客	・キッチンカーにて補助 ・販売補助 支援者の即言即答が ・消費、交流 しょうね。
	○事後 ・振り返りと会計処理（収支報告）をする。 ・収支を活用する。 収支の使い道。	飲食店経営者 協働活動支援員	・会計処理の補助 ・収支の活用サポート 売上げが、地域の活動に役立つ事に使えるようにするのをはかると思います。
	大の思ひやりにはいれないかもですが、 子供達に考えさせる事が大事で、大人は尊重する事を学ばせようか！		
評価方法	・活動の様子を観察（楽しむ、交流する、販売する、準備・片付け） ・地域の未来について考えることができたか（感想・振り返り）		
	・		
	・		
	・		
成果	・		
	・		
	・		
	・		
課題	・		
	・		
	・		
	・		

⑦
当日の準備
したいお祭
が、子供達に
無償で提供
できるのは
いいですね
↓
当日は
中学生が
やる
村長さん
の話を
聞いて
やるの
がいい
ですね

商工会のやを貸して
お祭りは？
子供会に位置づけ
てもらう

活動名	「地域の方とクラブ活【小学校高学年】 スポーツ、家庭科・囲碁将棋、図工		
活動目的	・所属するクラブを自分で選ぶことで、意欲的に取り組み専門的な力と個性の伸長を図る。 ・他学年や地域の方との交流を通して、望ましい人間関係を形成を図る。 ・地域の方に聞きながら協力してよりよいクラブづくりをしようとする態度と自主性を育む。		
支援者等	・地域ボランティア20名(工務店、囲碁将棋クラブ、スポーツ協会、地域住民) 教育委員会		
実施学年・人数	4・5・6学年・70名		
学習場所	・学校体育館or社会体育館村orサッカー場、家庭科室、教室、図工室		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	○スポーツ (名) 支援者と年間計画を立てる。異学年交流のため体力・技術の差があるため誰かが楽しめるよう活動の前にルールを話し合い決める。村の文化祭で幼児からお年寄りまで簡単に体を動かせる遊び・体操を考え交流する。 昔遊びが中心の交流 ○囲碁・将棋 (名) 囲碁将棋の基本を教えてもらい、簡単な対戦をする。担当教諭、囲碁将棋クラブの方も対戦に参加する。村の文化祭で来訪した方と対戦する。 ○手芸 どんな物を作りたいか意見を出し合う。手縫いで作れるものから挑戦する。個々の進度に応じて作品作りをする。5・6年生は家庭科でミシンを始めたいため、直線縫いでできる作品にも挑戦する。村の文化祭で展示し、自らが指導者 ○木工『ミニチュアハウス作り』支援者が用意したパーツ(屋根・窓・ドア・煙突・タイル)を組み立て、思い思いの作品を作る。村の文化祭でミニチュアハウス作りコーナーを設置し、地域の人たちと交流する。秋祭りで発表する事で、地域が	スポーツ協会、文化協会、囲碁将棋クラブ、文化協会手芸部、地元工務所	・生徒や先生方のアンケートを元にスポーツの種類決定の補助と指導。ルール決めでは子供達の意見を十分に取入れ、安全に公平にスポーツ対戦ができるよう助言する。 →生徒のやり取りも丁寧に行う ・囲碁将棋の指導、囲碁将棋大会の設定(簡単な決まりを作り説明。歩を5枚獲得したら勝ち子供が決定した駒の動かかし方を尊重し、自己肯定感をもたせる。文化祭の会場設定や補助 →私も同意見です ・生徒や先生方のアンケートを元に手芸作品の案の補助と指導。村文化祭展示に向けて作品作りに自信を持たせる。文化祭での会場設定や補助 →指導者が作ったものなども見せてみる。作りたいという思いを高めよう ・生徒や先生方のアンケートを元にいくつかの提案をするなどの木工作品の指導計画案を作成。作業の補助。子供達の個性を尊重し、自由に作品に対するイメージを持たせてあげられるよう助言。文化祭での会場設定・補助
評価方法	・児童の観察、児童の変化(児童と先生へアンケート) ・全員がクラブ活動を楽しむ good!!		
成果	・異学年や地域の方と交流しながら協力して活動が出来る ・自分から進んで地域の人に聞き、意欲的に取り組むことが出来る ・より専門的な力を付け、文化祭で展示し、自らが指導者となって地域の方にも体験してもらうことで技術習得の成果の確認が出来る ・作品の作成進度に差が出てきてしまう。 ・活動計画を見直して立案が弱くなる ・積極的に参加できない子もいた。		
課題	・参加しない子を見つけては、どうして参加しないのか、難しい問題です。()		

教員の働き方改革
に力を入れる

自分の作品を学校で作り
夏休みにハロウィン
を作るなど自分達で
地域に還元できるイベント
にしたいと、夏休み
に力を入れる

他学年交流・地域の方との交流が社会性で育む

達成感がある

イベントは、地域の方と協力して行う

アートボール
金おどり
村に伝わる文化
取り入れる
その人達の心
を大切に
思いやる

学校の文化祭で
地域の方に伝わる文化
を取り入れる

夏のイベント
ハロウィン
を作るなど自分達で
地域に還元できるイベント
にしたいと、夏休み
に力を入れる

活動名	地域のよさを発信しよう！（氷瀑を見に行こう）【小学校・中学校】		
	・自分の住んでいる地域をPRする活動することで、地域のよさを知る		
活動目的	【視点1】 ・地域の観光資源を実際に見ることで、その素晴らしさを体感する ○<u>実際に見ることで、PRの幅が広がります。</u> <u>大塚田</u> ・地域の方と交流することで、豊かな人間性や社会性を養う。 ○<u>地域の人の知識をたくさん得ることが出来る。</u>		
支援者等	【視点3】 ・地域ボランティア、保護者、学校職員、カフェ経営者（キッチンカー） <u>教員がまずは知識を知ることができると</u> <u>満足したい</u> <u>楽しみたい</u> <u>（10）</u> <u>新しい実践が望まれます！</u>		
実施学年・人数	小・中学生 20名（○年生と○年） <u>4年生以上？ 安全面から……</u>		
学習場所	学校、威怒牟幾不動（南牧村星尾）		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
【視点2】 学校の総会で やります 思います。 社会教育の 一環として 学校では 難しいので （10） 社会教育が ふたつ 開催	○地域の観光名所や特産物について知る <u>改めて地域を知る機会に作る。</u>	地域ボランティア	地域の観光名所や特産物、歴史などに ついて、子どもたちの質問に 答える
	○地域の観光名所や特産物について調べる	地域ボランティア	地域の観光名所や特産物、歴史などに ついて、子どもたちの質問に 答える
	○実際に氷瀑を見に行く○ <u>中学生や保護者も 写真をとると思いが たが、写真とる場所を いざ写真とる場所を いざ写真とる場所を</u>	地域ボランティア 保護者 等 <u>が保護ボランティア はいまが</u>	子どもたちの安全確保及び子ども たちとの交流 <u>危険な場所でも ありのて見守りは大事ですね。</u>
	○どのような方法でPRしていくか考える <u>実際に氷瀑を見に行く○PRの仕方 が、短歌とくすし、 など思いますが、写真も撮るん でいいかな。</u>	安全面から （ふくろ3人）が ふくろ	
評価方法	・児童の観察（楽しそうに活動しているか、支援者との交流はあるか） ・児童の変化（簡単なアンケート、●●先生と相談） <u>フィードバック大事ですね！</u> ・実際に氷瀑を目にするすることで、その素晴らしさを伝えたいという気持ちが大きくなった。 ・子どもたちの安全確保をすることができた。 ・保護者の中には氷瀑を初めて知ったという方がいたので、今回の学習を通して子どもと一緒に学ぶことができた。 <u>子供を通じて学ぶのは楽しいです。</u> ・他の観光名所も実際に見に行きたいという気持ちが生じた。		
成果	【視点2】 ・休日の開催になるので、学校職員の参加について、勤務時間のことや負担感に課題が残る。 平日開催も <u>（遠足に似たり行けるかな！）</u> <u>（10）</u> <u>総会、授賞に合わせ平日に遠足ができるかな</u>		
課題			

来年度に向けたブラジシアップ後の事業(市町村)名: 富田

名著新刊

活動名	新一年生 下校支援
活動目的	新一年生が安全に安心して下校できるよう慣れるまでの間 支援する
実施学年・人数	新一年生が安全に安心して下校できるよう慣れるまでの間 支援する
学習場所	通学路
活動内容	○8つの下校（8名） コースに1組以上エサポーターが1年担任 歩く （名） 参加する人のやりがいや楽しさに気づく活動 集休時間など、周知 ていねいに広げよう 団体などの協力
評価方法	リポート活動
成果	
課題	

上野村 (担当者名: 黒澤榮生子)

活動名	みんなで成功させよう【中学校2学年・道徳】			
活動目的	・生徒が今学校で学んでいる力と社会で役立つ力を結び付けていく。			
	・生徒が多様な意見に触れて学習内容に対する考えを深めることができる。			
	ちがう世代の意見も尊重になるが <u>同世代の力</u> の意見を大切			
支援者等	学校運営協議会委員 (10名程度)			
実施学年・人数	2年生・(7)名			
学習場所	2年生教室			
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容	
	○資料の読み	担任の先生		
	○問「信悟のグループのみんなの、それぞれの質問点を整理しよう。」	担任の先生		
	タブレット・各自付箋記入。大きい画面で共有			
	○問「リーダーにとって大切なのは、どんな考えだろう。」	担任の先生 協力者	付箋に記入 発表	
	タブレット：各自付箋記入。大きい画面で共有			
	○問「リーダー以外の人（フォロワー）にとって大切なのは、どんな考えだろう。」	担任の先生 協力者	付箋に記入 発表	
タブレット：各自付箋記入。大きい画面で共有				
評価方法	・つなげよう「バレーボール大会に向けてリーダーとして、フォロワーとしてどのように考え行動するか」	担任の先生 協力者	付箋に記入 発表	
	・生徒の観察			
	・授業後のまとめ（ノート）			
成果	・普段の授業では出ないような意見に触れて、考えが深まる。			
	・自分の意見に自信をもつことができる。	(せりふとカマバガ) が自尊感情も高めると思いました。		
	だくせんの人に頼るを聞いてもらったり。ほめてもらった中で、中には自信に繋がった。			
課題	・学校運営協議会の活動計画を活用して大人の人の入ってもらったが、もっと地域の人に授業に入ってもらいにはどうすればいいか。			

支援ではなく参加という
(強い) 支援のあり方が
可ばいいと思っ
ました。

準備の必要ない道徳は
正解の正しい/多岐に
多岐に多岐に多岐に
多岐に多岐に多岐に
多岐に多岐に多岐に

地域との合同授業 (ポイント使用)
南に同じような授業にしたい。
日常的に地域の方に授業にしたい。
地域のいろいろな人に参加してもらいたい。
何をしたらいいのか。
どこに働きかけたらいいのか。
誰に声をかけたらいいのか。
地域の特色もあるけど、難しい。

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名:南牧村 担当者名:水澤美穂)

活動名	放課後子供教室	【 1～6年生	・ 7～9年生	・ 高等学校	・ その他
活動目的	・子どもたちに<u>身体</u>の動かし方やスポーツの基礎を教える。(体力不足や運動能力の低下を補う) <i>見たりする楽しさや喜び</i> <i>ITがほしい健康な身体がとて</i> ・子どもたちに<u>楽しい活動</u>を提供する。 <i>つなごう</i> <i>いろいろな活動を専門家を招いてやっている</i> ・子どもたちに安全で安心な居場所をつくる。 <i>子どもたちの大切な居場所。遊び場とになっている</i> <i>休まれたら時間を作っている。時間解放が学校仲間おなだち</i>				
支援者等	・協働活動支援員、地域の方々				
実施学年・人数	(全) 学年・ () 名 希望する児童 <i>地域の方でたくさん入り込むほど地域そのものが安心な居場所になると感じました。</i>				
学習場所	学校、その他				
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容		
	○スポーツ・運動 ・野球、サッカー、ドッジボール 跳び箱、マット等	協働活動支援員 地域の方	身体の使い方の指導など <u>子どもたちと一緒に活動</u> <i>交流が生まれる。</i> <i>→先生と生徒ではない関係が大事だと感じました。</i>		
	○工作 ・折り紙、紙飛行機作り等	協働活動支援員 地域の方	工具の使用や安全管理 <i>ササゲな事、物を知り、実際に体験することでわかる</i>		
	○調理実習 ・おやつや簡単な料理作り <i>地域の方と子どもと一緒にご調理することによって(黒澤)</i> <i>→教える側の負担も減る</i>	協働活動支援員 地域の方	包丁や火の取扱い等の安全管理		
	<i>金曜日の活動については、子ども達と相談して決めておもしろいと思っています。</i>		<i>自分たちやりたい事をやらせる事でモチベーション。</i>		
評価方法	・子どもたちの観察 (安心してやっている様子が、楽しんでいるか) ・学校生活でも体を動かす活動を意欲的にやっているか				
成果	・支援して下さる 方々のつなぎ (年をとったりしてリタイアされる方も出るかも) ・支援が継続できるといいです。(黒澤) <i>支援者をつなげることで大変な思っています。</i>				
課題	<i>情報発信の方法</i> <i>収益で次回りの活動につなげる</i> <i>準備の段々から地域の人をまきこんで、学習計画の段々から一緒に作るように、クラブ活動(授業)に専門的方地域の人を</i> <i>中学生、高校生とのつわり、教員の負担を減らす</i>				

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業（市町村名：下仁田町 担当者名：有賀 喜紀）

活動名	伝えよう下仁田ジオパーク（小5 総合的な学習の時間）【小学校・中学校・高等学校・その他】		
	・地域にある独特な地形やそれを利用して発展してきた町の様子について探究する。		
活動目的	・調査したことを多くの方に伝えることを通して、地域への愛着と誇りを育む。 地域に残っているかも？ 下仁田 シェアパーク、大人の来客もまだ 興味があるはず。地元には生かした 幸せをかみしめてほしい！（思案）		
支援者等	・下仁田ジオパークの会 下仁田町自然史館 役場教育課ジオパーク推進係		
実施学年・人数	(5)学年・(25)名		
学習場所	下仁田小学校・下仁田町ジオサイト・下仁田町自然史館		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	○ジオパーク見学（25名） スクールバスを活用し、下仁田町に点在しているジオサイトの見学を行う。 地域を知らせるきっかけになる。 自分の住む土地がジオパークになる。 入館券	下仁田ジオパークの会	下仁田ジオパークの会所属のガイドさんに、ジオサイトの現地解説をしていただいた。 ガイドさんから直接、現地で解説してもらえるのはいいですね。（思案）
	○調査活動（25名） インターネットや図書資料を活用し、下仁田ジオパークについて調査する。	ジオパーク推進係	地質学の専門的な内容が入ってくるため、子どもたちだけでは理解できない。 容量について、対面での質疑応答をおこなった。 同じくジオパーク推進係員がサポートする。
	○発表準備（25名） ○ジオパークについて多くの方々に知っていただくよう、調査したことを自然史館において、特設展示をおこなう。 自分たちがやった事を発表する場があるのは、子どもたちにとってはいい。 とてもいい。発表場所にも道幅なども考えて、色々と見せてもらえるのではないかな？（思案）	下仁田町自然史館	展示場所をお借りするとともに、展示方法や宣伝方法についてアドバイスいただいた。また、調査した内容の正確さを確認していただいた。
評価方法	・児童の観察（活動への取り組み） ・児童の変化（アンケート） 子どもたちがジオパークについて、より詳しく上り下りする。（思案）		
成果	・12月26日からの特設展示に向けて、現在活動を継続している。 ・それぞれが関心を持ったジオサイトについて、調査したことをわかりやすく伝えようとまとめ方や展示方法を工夫している。		
	①活動期間中、継続して下仁田ジオパークに関わる方々との交流があった。 地域の人の声やアイデアが、地元の人と関わりあっていることがわかった。（思案）		
課題	・特設展示を行うことで、ジオパークに関わる方以外の方との交流を期待しているが、幅広い住民参加という点で活動の広がりに課題を感じる。 展示場所を道の駅に移動することで、地元の人だけでなく多くの人が見てくれる。意見箱なども置く。（思案） ・地域を知り、地域をPRする活動ではあるが、地域づくりという視点を児童が意識していない。 まずは、子どもたちが自分の地域を好きになることから始めたい。 そのためには「知る」というのが大切。 地元の人が直接お話を伺えるのはいい。（思案） 地域のおおきな力が、まずは、地域づくりの視点を意識し行動できるように。（思案）		

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名:神流町 担当者名:坂本哲也)

活動名	中里中学校花壇整備【中学校】		
活動目的	・中学生が、季節感を味わえるようにする (普段は無い人間関係の中で誉めてもらうことで、中学生の自己肯定感・郷土愛を高める) <i>孝行の心は育ちます (斎藤)</i>		
	・中学生が、地域に適した季節の植物とその植え付け方に加え、ガーデニングのアドを管理の仕方について知ることができる。 <i>外部講師との連携、プロの技を学ぶ</i>		
	・地域の方が、気兼ねなく学校の敷地へ入って来られるようにする。 (地域の人とも中学生と接することで、活力をもらうことができる) <i>花だんぐいしに生かす市</i>		
支援者等	・神流町婦人会 (特にその役員さん) <i>4人</i> 地域の人にも中学生と接することで、活力をもらうことができる <i>月見見すす、カーニバルが</i>		
実施学年・人数	中学生・体育環境整備委員会 (中1～3)年・(4)名		
学習場所	教室および、学校花壇		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	①5月 1年間のスケジュールを決める 昨年度の反省を今年度生かす (生徒4名)	婦人会役員さん (4名)	季節に応じた花壇になるよう、1年間の活動計画を生徒たちと考える。
	②6月 夏に向けて、花壇に植える植物について、話し合う＆植え付け。育て方についても例年を見直す。きまわりを作る等 (生徒4名)	婦人会役員さん (4名)	生徒たちの質問に答える。植え替え方法、植え付け方法、管理の仕方の基本を伝える。
	③夏休み 花壇の雑草整備、校庭の雑草整備	婦人会の方 <i>地域の方</i> <i>学校の足元をきれいにする (岡野)</i>	花壇を定期的にみてもらう。 校庭を何かの機会でする。
	④11月 冬に向けて、花壇に植える植物について話し合う＆植え付け。夏の反省を生かして、育て方についても見直す。	婦人会役員さん (4名)	生徒たちの質問に答える。植え替え方法、植え付け方法、管理の仕方の基本を伝える。
評価方法	・生徒の変化 (アンケート「花壇整備を通して学んだことは?」)		
	・観察 (生徒と地域の方がどんな会話をしているか。誉め言葉や前向きな表現を見取る) 横路		
	・地域の変化 (アンケート「中学生との活動を通してよかったことは?」)		
	・地域の方が学校に来た回数をカウントする。		
	・季節毎の草花に関すること、管理の仕方について知ることができた。		
成果	・1年間の花壇のスケジュールを作ることができた。 <i>見通したこともできることか? 子どもの心にも</i> <i>支援者にもよからうと見えてくる。 (岡野)</i>		
	・話し合いを通して、お互いに学びがあった。(学校ではプランター管理が難しい) <i>失敗を返して学ぶ</i> <i>生徒も返して学ぶ</i> <i>生徒も返して学ぶ</i> <i>生徒も返して学ぶ</i>		
	・作業をしながら、進路のことや部活のことなど普段は無い人間関係の中で話すことができた <i>自然が育つコロシアニ</i> <i>生徒も返して学ぶ</i> <i>生徒も返して学ぶ</i>		
課題	・学校が「お願いします」と声を上げないと実現しない活動になっている? <i>学校から依頼を出して</i> <i>実現できてる</i> <i>実現できてる</i>		
	・子どもの意見や話し合いで決まったことを無視して <i>ボウタイアタリ</i> <i>事前に役割を説明する (赤)</i>		
	・学校 (先生・生徒たち) は、授業が第一優先であり、花壇がおろそかになりがち。 <i>いそこの夏休み</i> <i>花だんぐいしに生かす市</i> <i>花だんぐいしに生かす市</i>		

花だんぐいし 植木は○○など、

外部には○○管理を
完全におまかせしちゃう
(赤)

同見です、(斎藤)

花だんぐいしを見に来る子は

花だんぐいし、何かのついでに

見に来る子は...

生徒・支援者が当番制で

水やりをしては? (斎藤)

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名: 片品村 担当者名: 岡野典子)

活動名	あつまれ!アートチャレンジ (物づくり教室) 【小学校】 中学校・高等学校・その他		
活動目的	子どもたちの体験活動の充実 子どもが教える例にアートをかいて 地と子・学びの循環、世代交代、3は3いい 【視点2】		
支援者等	文化協会会員、地域で物作りなどの活動をしている人 色んな地域の人や保護者にも、ボ 【視点1】		
実施学年・人数	(3・4)学年・(各講座10~20)名		
学習場所	文化センター 学校が近い!		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
色んな地域の人や保護者にも、ボ もそうgood	○ <u>絵画</u> 教室 (子ども10名、大人10名) 参加者%が高い。	文化協会絵画部	・制作の説明 ・制作中のアドバイス
	○ <u>俳句</u> 教室 (子ども10名、大人10名)	文化協会俳句部	・創作の説明 ・制作中のアドバイス
	○ <u>写真</u> 教室 (子ども10名、大人10名)	文化協会写真部	・撮影の説明 ・撮影中のアドバイス
	○ <u>炭クラフト</u> 教室 (子ども10名、大人10名)	炭クラフト制作者	・制作の説明 ・制作中のアドバイス
	○ <u>クラフト</u> 教室 (子ども10名、大人10名)	炭クラフト制作者	・制作の説明 ・制作中のアドバイス
評価方法	・児童の観察 (楽しそうに活動しているか、 支援者・参加者との交流はあるか) ・ 参加者の変化 (アンケート)		
成果	・地域の方々に教わって、楽しく物作りができた。 ・講師となった地域の方々にたくさん誉めていただき、より達成感をもつことができた。 子どもが教える例にアートをかいて 地と子・学びの循環、世代交代、3は3いい 【視点2】 ・一緒に参加した地域の方からも声を掛けていただき、交流をもつことができた。 講師以外の地域の人や参加者が多い		
課題	・保護者にとどまらず、地域の方により広く参加していただけるようにする。 ・参加した児童や保護者、地域の方々が継続的に文化活動に関われるとよい。 子どもが教える例にアートをかいて 地と子・学びの循環、世代交代、3は3いい 放課後・週末も教える内容に、相談する方が多い		

学年(対象者)はどのように決めるか?

作品を7月までに作り、文化センターに展示。実際の展示の様子を写真で撮影し、後に見返す。

→ 実物を見ることができ、何をしているのか、わかる。

いろいろな興味を持ってもらいたい。参加者が増える。

同時に、地域の様子や写真なども展示。

アートをかいて、地と子・学びの循環、世代交代、3は3いい。

作品を地域の方に展示する。

子どもが教える例にアートをかいて

地と子・学びの循環、世代交代、3は3いい

作品を7月までに作り、文化センターに展示。

子どもが教える例にアートをかいて

SPGS !!
無料でご相談
していただけます。
お気軽に
お問い合わせ
ください。
(市)

来年度に向けたブラッシュアップ後の事業(市町村名:館林市 担当着名:斎藤)

活動名	大島竹あかりまつり【小学校及び地域住民】		
活動目的	・地域の夏のイベントを創出する ・荒れた竹林の有効活用 <u>マイクス→プラス最高ク</u> (そう思います。(岡野)) F、c PR (日竹も参加したい)		
支援者等	・地元住民の有志 - 竹細工職人いっせんが? (岡)		
実施学年・人数	(全) 学年・(60) 名		
学習場所	各教室のHR		
活動内容	活動内容と方法	学習支援者	支援者の支援内容
	地域住民及び小学校に用紙を配付し、竹に加工するデザインを公募する <u>子どものアイデアをスターターにする</u>	地元区長	チラシの作成
	集まったデザインをもとに、竹に穴を開けて加工する <u>用紙でそのまゝ穴あけでいいからいい</u>	地元有志	竹の加工作業 → 子どもも参加してほしい (岡野) 親子でとろろ
	点灯式を開催し、同時に花火大会を行うことで児童を集める	地元有志 育成会	点灯式の運営 花火大会の運営 <u>子どもの参加が楽し</u>
	2週間程度、毎日竹あかりのイルミネーションを実施する <u>LEDとp、雨に強いものにしよう? (岡) ← すん。</u>	地元有志	竹あかりの設置、片付け
評価方法	・参加者からの評判 → とても美しいイベント。来場者も多い。(岡野) ・子どもの楽しそうな笑顔		
成果	・200本の竹あかりを作成した		
	・点灯式には300名以上、期間中計500名の参加者が来場した。		
課題	・子どもの関わりが少ないのが、親子で穴あけではないか? (岡) ・地元有志の負担が大きいの - 公民館運営委員で話し合う 地元以外からの参加OK? 中 ・竹あかりの処分 (劣化してしまうので来年には使えない) 売る。どこかへキッス? (岡) 譲るか → 処分の仕方。何かに再利用できないか。		

21.2

↑

中學生より。
↑ わが国に於けるもの(国野)

2. P_{12}

反壳 in 23

金
十
十

$\frac{1}{2} \times 100 = 50$
 $\frac{1}{2} \times 100 = 50$

1. P. p. p. p. p.

$$(x, y, z) \rightarrow (x, y, z)$$
$$\frac{1}{2} \ln \left(\frac{1}{1-x^2} \right) = \frac{1}{2} \ln \left(\frac{1+x}{1-x} \right)$$
[illegible]

- 高齢者施設、障害者施設にもデザイン画を依頼（利用者さんに描いてもらう）
- 一緒に活動にも参加してもらう → 多様な人との交流を促すことができる（赤）
- 展示（ラストアップ）するときは、参加団体、学校など、お名前を記入していただくようにお願いする

『鬼石・神の子大豆プロジェクト』
～「子どもが主役」、「子どもが主体」の地域の輪～

授業にどれくらい組み込めるか (取)
総合の年計画に (小風「おがたをさる大豆」)
それとも、うべ? 学校以外で??
(取) 藤岡市鬼石校区 赤岡千春 (取) 後援: ユニ

神の子(かみのこ)大豆とは…?

昔から埼玉県神川町(神泉地区)のごく一部で栽培されてきたとてもおいしい大豆。濃厚な味わいで甘みや香りがとても高い。松田マヨネーズの初代社長がその旨さに感激して『神の子大豆』と命名した。害虫を抑えるため、7月に種まきをして10月に収穫。そのため無農薬で栽培が可能。



おにつち(学校運営協議会オリジナルキャラクター)
やまっち (桜山) かわっち (三波川) さくらっち (冬桜)

おにつち(学校運営協議会オリジナルキャラクター)

※各活動には、地域住民(学校ボランティア)の力を借りる。→
※子供が主体。自立心を向上させるために、大人は見守り、相談役になる。

→ とても良いと思います。
こうすることで子どものやる気が出ると感じます。(岡野) (取)

活動の流れ

1. 栽培、収穫する。

大豆を栽培する。

2. 食べる → まあは、子ども自身による体験させることが大事!(岡野)

大豆や枝豆の食べ方を調べる。

収穫した大豆や枝豆を食べる。

大豆の加工食品を作り、食べる。

3. まとめ・表現する

活動内容を写真や文章にまとめて、発表する

発表したものを、地域づくりセンターなどで展示する。

4. 販売する

・規格・パッケージ作成 → 子どもたちのアイデアを使いやすい(岡野)

・何を販売する?(枝豆、大豆、きなこ)

・学校運営協議会マスコットキャラクター『おにつち』の活用

・鬼石の八福神である『鬼』。鬼石で節分する時の掛け声は「福はうち。鬼もうち」

・POPづくり。

・販売物の選別。袋詰め。

地域イベントに出店して自分で販売する(青藤)

地元企業とのコラボ (取) → ヤマキ じゃいどう

5. コミュニケーション能力を高める

・言葉遣い、電話でのマナーなど接客や応対のあり方を調べる

・学校ボランティアから実際に教わる

実際に電話を使って交渉の練習

→ 社会で必要能力、重要! (青藤)

中学生チャレンジウィークの先方への電話は、生徒が自分で行う

6. 販売ルートの開拓

1) 地域の飲食店に販売し、料理に使ってもらう。(大豆・きなこ)

電話をかけて、お店に伺う日を交渉する

2) 節分豆まき用の大豆として『煎り大豆』を販売

7. 枝豆や大豆を使ったオリジナルレシピを開発する

(藤岡北高校のフードビジネスコースとコラボするのでもいいかも)

オリジナルレシピの料理作を開発して食べる

学校ボランティアや地域の人に日頃の感謝のお礼を込めて試食していただく

招待状を作って出す。回覧物の作成。

8. 残渣(ざんさ)の活用

※残渣…収穫し終わった枝や茎の部分

・窒素が豊富な大豆や枝豆の残渣をただ破棄するのではなく、畑に還元する、肥料を作るなど

活用方法を考える。

SDG 2.3 (取)

くずは 高に

9. お金の管理をする

収入、支出、などの会計報告をする

お金の勉強をする。

外部講師を呼び、お金の増やし方や運営の方法などを学ぶ

お金を使う

得た収益を何に使うか、児童・生徒が決める。

得た収入を使うことで、活動する喜びと感謝を味わう

中3 経済にがらみ (取)

NPOを立ち上げる

・4支報告も、生徒がやる。
・大豆以外のこともやるから(部活)

10. 大感謝祭

→ 既存の地域イベントに参加するところから始めよう (青藤) (取)

① 日頃の活動の発表する

公民館サークルの活動の発表会も同時開催

② 歌と芸術のまち『鬼石』を知る

シロオニスタジオ・アートレジデンシー(海外のアーティストが鬼石に1か月ほど滞在し

て鬼石の文化や交流を通して作品を制作・発表する)とのコラボ

地域で活躍しているアーティスト(文化・芸能)の発表の場

③ マルシェも同時展開

朝市(鬼石で月に1度開催している青空食堂)とコラボ?

鬼石の福祉施設(高齢者、障害者)で作っている製品や農産物の販売

地域の人が作っている作品の展示・販売

フリーマーケット

地域の飲食店にも出店を呼びかける

ゴールが近づいて (取)

ブラッシュアップの視点

【視点1】

連携の目標（何のためにやるか）を明確にしているか

【視点2】

地域づくりにつながる展開となっているか

【視点3】

幅広い住民が参画しているか

毛筆という日本の伝統を正しく身に付けたい、
ステキ田 岡

- ①、講師の実施を見て、自分の目標を持ってやる、（自分も講師のようになりたい）
授業で習うだけでなく、もっと習ってみたい、と思える、
地域の人（の文字）が、お祭、目標になるって良いです！ 岡
- ②、講師によって、授業に教える、実施する、自分も上達し、目標とする、
何よ心を持って望める、
地域の人、自分もプラス!! いいですね!! 岡

③、学童の生徒に指導
地域への力になれる、いいですね!! 岡

学童に行っている子にも、長期休みの日等、定期的に、単発で教室の開催...だと、さらに力になれる、 岡

（お名前）： 佐々木 翔太 （お名前）： 佐々木 翔太